

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	送 付 委員会名
24年 第12号	24.5.10	<p>天皇家は四季折々の時、京都御所に長く滞在して下さるように意見書を国に提出するように求める事に関する陳情</p> <p>【理由】</p> <p>私事で恐縮だが、私の中学時代の修学旅行は江ノ島、鎌倉、東京、が定番であった。東京は、羽田空港、皇居を中心に見学をしたが、初めて見る皇居に感動した事は今でも鮮明に覚えている。</p> <p>その後、歴史を学ぶ中で、明治維新の為政者は、日本社会の近代化を進める為に、色々な諸政策を実行した。東京奠都はその一つである。京都は盆地で面積も狭く、これに対して、江戸は広大な関東平野と、その当時世界的な人口を有しており、そのうえ、徳川幕府崩壊で、江戸町民の人心が動揺し、江戸町民の人心の動揺を鎮める為に、天皇家を京都から江戸に行幸し江戸城に居城を移し、東京奠都を実行した。東京奠都によって江戸町民の動揺も落ちつき、江戸城は皇居となった。それ以降、新政府は廃藩置県、徴兵制導入、など多くの諸制度を導入し近代国家の形を整えた。</p> <p>これらの諸制度によって、日本は、地方主権から中央集権制度に体制は変革した。特に江戸を東京と改元し東京に政府の中枢機能を集めた事は、すなわち東京一極集中体制が確立し、明治、大正、昭和、平成と時代の変遷を経て、今でも東京一極集中体制が続いているのが現状である。</p> <p>東京一極集中体制を廃し地方復権を図る為に、四季折々の時、天皇家は京都御所に滞在され、将来は京都に還幸し、京都御所にお住まいされることを切望する。よって、下記事項を陳情する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 天皇家は四季折々の時、京都御所に長く滞在して下さるように意見書を国に提出するように求める事。</p>	個人	総務企画